

が、僕たちでなんとかしなきゃいけない、お互い協力してや  
ってかなくちゃいけないという意識があつて、それで、まと  
まりやすかつたのかなとも思います。

**奥中**…自己組織化という意味では、もう全然問題ないかなと  
思います。ただ、全部自分たちで考えるのではなく、ある程  
度型にはめたようなパックの中で、例えば、決められたミー  
ティングであっても、その班の独特のやり方、肉付けをその  
中でやっていくのがいいのかなと思います。何のリスクもなく  
無事終わるのがいいんですけど、何かあつた時に、添乗とい  
うか専門の方がおられると助かるかなとも思います。

**大橋**…このボラパックは先遣隊から始まり、36便までずつ  
と続いてます。だから、自己組織でやるのは良いこととは思  
います。ただ最初の人が大変なのは仕方ないとは思うので  
すが、次の人はそれによって楽というのではなく、また違う  
ところも開拓していただいています。いろんなノウハウをそ  
の人はその人たちでつくり上げながらフィードバック  
して、組織に返しているの、いいのかなと思います。この  
12月28日に事務局が終わるとのことですが、そういう意味  
でみえボラとしていろんな収穫があつたのかなと思います。

**二瓶**…皆さんが全く対等の立場で、たまたま募集で集まり、  
たまたまリーダー・サブリーダーとなつて、一週間の活動を  
したわけです。その活動をするうえで、具体的な指示や注意  
事項を、リーダー・サブリーダーの方はしっかり頭の中に入  
れてみんなをリードし、活動が終われば報告します。その報  
告が次に活かされ、その繰り返しで36便まで積み上げられ、  
現実が続いたわけです。だから、最初からリーダー・サブリ  
ーダーを事務局が決めるんじゃないで、皆さんの合意で決ま  
っていくというのは、全く見ず知らずの人間が集まつて一つ  
の活動をする上で、すごく大事なことかなと思います。

**山本**…実は、最初、添乗員が付いていくという方法もありえ  
ました。そこを、あえて取らなかつたというのは、一つは、  
各便が現地で長い期間ちゃんとボランティアするというこ  
とで、きつと皆でチームを作れると考えたからです。スタッ

フがついていくことになる、運営する事務局側の労力も負  
担も大きいです。なので、あえてチャレンジしてみたいです。  
結果として、みえボラが長く活動できた一つの原動力は、皆  
さんに苦勞を分かち合つてもらいスタッフが裏方に徹する  
ことができたことでした。皆さんの話を聞くと、それぞれに  
チームづくりの雰囲気違います。これを同じスタッフがや  
つてると、自分のやり方を押しつけてしまい、それぞれの  
便の色が消えてたかもしれないし、トラブルにつながつて  
いたかもしれない。添乗員をつけないというのは安易に取  
れる方法ではないのですが、皆さんがおっしゃつたように、  
ちゃんと報告を聞いて次に引き継ぐ、現地に信頼できる方が  
確保できる、そういう場合は、一つの方法かなと考えさ  
せていただきました。

### それぞれの思い

**山本**…最後に、何かメッセージなり思いがあればお願いします。  
す。

**中田**…いろいろ前から準備していただいて、本当に良い経  
験をさせていただいたと思います。ありがとうございました。  
**山中**…行く機会を与えてもらったし、バスがあつたからこそ、  
何回も山田町に行けたので、本当にありがたいと思います。  
行かなくても続けていける何かを、いろんな仲間がつながり  
あつてできていければいいのかなと思いました。ありがとう  
ございました。

**太田**…交通手段とか宿泊施設とか確保できて、行くことがで  
きて、本当に良かったなと思っています。一人よりも、何倍  
以上のことができたような気がしますし、本来、出会わな  
かつた人とすごく出会うことができ、自分自身の経験にな  
つたと思っています。今でも19便のメンバーとは定期的に  
食事会なんかを開いて、今後も継続して何かをしていければ  
いいなという話や、みんなで山田町に旅行に行つて、その後  
の様子を見たいと話しています。

**奥中**…ボランティアを通じて、いろんな方々との出会いがあ

りました。その出会いの中で結婚という幸せを掴んだ人もい  
て、そういうのも、非常に良かったのかなと思います。今後  
どういった災害があるかわかりませんが、すごく大きな経  
験ではありますし、そういった時のモチベーションの持つて  
いき方とか、すごく学んだことがこの席では話せないくらい  
あります。今後も、何かあつた時にはスムーズに動けるよう  
な体制を作つていただければいいのかなとも思いました。

**大橋**…私はみえボラで行かせてもらつて、自分たちでもボラ  
バスを出させていただきました。本当にためになったと思  
います。みえの事務局は一応の区切りですが、何かあつ  
た時にすぐに対応できるように、定期的に催し物というか会  
議を開いたりというのが必要だと思います。三重県から行つた  
方々は、三重県で災害があつたら大いに活動できるでしょ  
うし、本当に良い財産だと思いますので、この方々のリストは  
大事にしなから、何かが起こつたときにはお声かけができれ  
ば一番いいと思います。お声掛けしなくても動くとは思いま  
す。そして、県予算をきっちり取つてください。災害が起き  
た時にすぐに動けるような組織化が大事だと思います。

**二瓶**…非常に貴重な財産を、みえの事務局は得られたと思  
います。この大きな財産を、事が起きた時に対応できる活かし  
方を考えていただきたいと思います。  
県や市への繋がりもおありに  
なるでしょうから、人のつなが  
り、組織のつながりというのを  
重要視し、向こうから何とかし  
てほしいと声をかけられる組  
織づくりで、財産を活かしてい  
ただきたいです。

**山本**…皆さん、今日は本当に貴  
重な話をありがとうございました。



全員で記念撮影

【平成25年9月1日】

ラとして、ボラセンや役場、地域の方に対しての対外的な顔になります。みえボラの顔という意識も持っていたのだと思うんですけども、その辺で、気をつけたこととか何か困ったこととかありますか。

**大橋**：3便の場合、ボラセン内の責任者は誰というのが難しかったです。アリーナはみえボラ、決裁を取るのが違う人、というのが非常に微妙でした。そういう時はこちらが推し量りながら、他の団体さんにも上手く話を持ちかけ、まとめていくということをしました。担当作業柄、社会福祉協議会とか町役場へ直接話をするということもさせていただいたので、いろいろと便宜をはかっていただいたりもしました。整備途上のところというのは、組織対組織の兼ね合いというのが、非常に難しかったと実感しています。

**奥中**：私たちの時にはお風呂もありましたし、ラジオ体操もありました。組織対組織という問題はだいたい解消していただいた後だったので、対外的な問題というのは印象はないです。ボラセンを開設した当初はすごくそういう問題があるのでしょうが、それをいかに早く解消するかによって、あとあとスムーズにいくかというところがあるかと思っています。

**山本**：二瓶さんは5便から見えて、今思うところはありますか？

**二瓶**：対外的なところでは、ほとんど顔を出していません。ただ、ある時点で、絵本があるの  
で読み聞かせをして、その後寄贈出来ないかという話が事務局から出ました。なので、保育園や幼稚園、小学校に行って要望を聞きましようということになり、最初は私が直接動いたんです。しばらくして、ボラセンから、具体的に活動してほしいという要望が出てきていないのにニーズをとってこられ



二瓶健さん

るとはどういうことでしょうか、という意見が出ました。それに対して私が動くんじゃないかと、松岡さんたちが動いてスケジュールを作り、それが社協を通じて、みえボラが動くという形になったんです。手が届きにくいと思われるところに對して動いているのに意見を言ってくるのは、何かが違うと思います。松岡さんたちが動いてくれたので、上手く回るようにはなりました。

**松岡**：ボラパック口になってからは、こちらから活動を提示して、会場の調整やマッチングをしてもらう、という形が出てきます。ですが、ボラパックの時は、こちらからニーズを提案して活動を行うとはどういうことか？を理解してもらったことから始め、そのために、絵本の読み聞かせ活動、そして35便では特別便と一緒に運行したんです。先ほどの二瓶さんの話のようなことを繰り返しました。

**山本**：現地のボラセンの人たちは、初めてボラセンを運営して、いっぱいいっぱいやってきて、こんなもんなかなかという流れの中だったのかなと思います。ただ、支援に行く側としても、こういうことだったらもって役に立てるのにと、自分たちが聞く中でこういうニーズがあるはずなのに、なんでやらないの？という思いが出てきます。それと、現地の組織とのすり合わせという部分で、本当に二瓶さんにも迷惑をかけたし、難しい人間同士の関係が負に働いた部分は、事務局のみんなに走り回ってもらって、一つ一つ解決していきました。

**松岡**：その時に難しかったことを乗り越えたので、今ではスムーズに運用出来ています。

**山本**：最初の先鞭を付けてもらったのが、二瓶さんの絵本の読み聞かせだったと思います。

**松岡**：押し付けボランティアになっていないことを証明する必要がある、例えば、保育園の方からボラセンに一本電話を入れていただくだけで、解決する場合もありました。

**大橋**：やってあげたいねという心と、やってほしいという心が形になってないだけで、組織が本当にきちっとされていれ

ば、もっと最初からそのつながりをスムーズに出来たのかもと思います。

**山本**：現地のコーディネートを、どうやってみえから提示するかによって、支援する側も気持ちよく活動ができるという部分もあります。今回山田町でその経験をしたから、自分たちの身に起こった時、どういうことをしなくちゃいけないというのを、考えるきっかけになったのかなと思います。

### 自己組織化というチャレンジ

**山本**：今回、自己組織化というのを一つの大きなテーマでやらせていただいています。事務局のコーディネーターを同行させず、最初から役割も皆さんに決めてもらい、その代わり現地で何かあったら、二瓶さんも含め、現地のスタッフにすぐに対応してもらおうというやり方をしました。その良かったところ、悪かったところ、改善すべきところを、しっかりと見ないといけません。実際にリーダー・サブリーダーを務めていただいて、スタッフがつかないことの良し悪しについて、意見や感想をお願いします。

**中田**：私たちの時は、お一人同行いただいたんです。なので相談もできました。保育園に行くというのも本当に思いもよらないことでした。現地にいるからこそわかる活動なんだなと、すごく思いました。

**山本**：現地で継続されている人がいる強みですね。

**山中**：24便の参加者の中には、他県発のボランティアバスへの参加経験者がいました。みえボラは添乗がないから、行くメンバーで全部をやらなくちゃいけない、と他県と三重の違いを聞きました。

**太田**：添乗をしてくださらなかったから、逆にメンバー全員

座談会の様子

